

お米作り雑感



NPOあさひ 副理事長 矢板 力

私があさひ福祉作業所の引き売りをお手伝いしたのが先だったのか、島さんから進められてお米作りを始めたのが先だったのか、記憶が定かではありません。島充弘さんから「大変な事もあるけど、収穫したときの喜びは、なにものにも代え難い」からどうですかと進められて、今日までお米作りを続けてきました。

お米作りは俗な言葉で、大変さを表すのに「八十八手手がかかる」と言われています。米作り 1 年目は、まわりの人から言われたことを無我夢中でこなしてあっという間に収穫まで終わったという印象しか残りませんでした。またその年の収穫量は、いま思い返しても 7 畝の田んぼから 400kg ほどの収穫がありましたので、このことばの意味も理解出来ずにいました。いま思うとその分、島さんやまわりの人達が支えてくれていたのだと思います。

2 年目からは大部分を自分で行いましたが、3 月の田起こしから始まって、苗代づくりと並行しての苗作りと毎日、気が抜けない作業が続きました。苗代づくりでは、初めてのトラクターの操作で、車の運転とは違った緊張にも襲われ、トラクターを使うのではなく、トラクターに使われている自分がいました。その結果の田んぼは惨憺たるもので平らに耕耘されて無く、四隅は盛り上がり、後の修復作業の方が時間がかかってしまうほどでした。一方、苗作りは育苗センターから緑化といって芽が 2~3cm でした苗を購入して、そこから田植えが出来る 17~8cm までトンネルで苗を育てなければなりません。この時も、トンネル内が暑くなれば焼けて死んでしまいますし、夜にトンネルを忘れると、霜で枯らしてしまうことになり、気が気ではありません。そうして 5 月末に、いよいよ自分の田んぼでの田植えです。やっとこの日を迎えたということで、晴れがましく嬉しい日で、五月晴れになれば言うことなしです。

田植機もほかの農家の方は、4 輪の座



(田植え後の田んぼで)

わって運転できる田植機を使つての田植えですが、私たちは歩行形の田植機ですから大変です。苗を4列ずつ植えていく4条植えの田植機を使用します。苗代づくりが平らに耕耘されていれば、田植機もほぼストレートに進みますが、深いところ浅いところとあると田植機が蛇行しはじめ、それを押さえるのが大変です。また田んぼの端までいけば田植機をUターンさせ、前に植えたところと間を開きすぎないように戻りながら田植えをします。こうして7畝の田んぼは2時間半ほどで一応田植えの終了です。しかし、この後の補植が大変です。田んぼの4隅が田植機では隙間が空いてしまうこと、浮いている苗などの補植があります。田植えが終わるとやれやれという気持ちと半年間無事に育つて、秋にりっぱなお米に成長してくれよと願わずにはいられません。

田植えの次の日からは水の管理が待っています。水の管理とは、苗の成長に合わせて田んぼの水位を深くしていくことです。無農薬での米作りですから水位が低くなると、すぐに雑草が出てきますので、出きるだけ深くすることが秘訣です。そうしても、田植えから1週間後には雑草対策の仕事が始まります。特にヒエ対策に苦勞します。ヒエは少し大きくなるとお米の苗と素人では見分けがつかないくらいに似ているので、やっかいです。2013年は、農業委員の方に教わり、チェーン除草という方式を伝授され、ヒエを押さえるのに楽になりました。昨年までは田んぼに入って、両手でヒエをかき回して浮かしていました。この方式では、1回田んぼをかき回すのに5日くらいかかり、これを7月中旬までに3回行います。

7月中旬には、田んぼの土曜干しといって、稲の根の成長を促進させるため田んぼを乾かし空気に触れさせます。ここまですると稲の茎が太く膨らんでき



て、穂が出てくる気配が感じられ、ほっとする一時です。8月初旬には穂が出始め、田んぼのまわりでは、甘いミルクのようなおいが感じられる季節です。このにおいに誘われて、すずめがお米を食べに来ます。この頃の田んぼの水は、常に水を張っている状況ではなく、水が無くなったら追加をする状況です。

8月も終わりに近づくと、全ての稲

に実がなり穂が垂れ下がってきます。

(8月初旬、穂の出始め) そして、一粒ひとつぶも大きくなってきます。これからは台風が来ず、稲が倒れないよう無事を祈るだけです。

こうして9月下旬から10月初旬に稲刈りを行い、田んぼで天日干しをして、

10日～2週間後に脱穀をして収穫となります。脱穀をした日は、早速、新米を食べますが、新米のおいしさとお米が収穫できた安堵感と充実感で胸が一杯となります。

今日、TPPへの交渉参加で、お米の関税撤廃が云々されておりますが、食料の自給率や、日本人の主食であること、田んぼが保水機能（国土の保全）の役割を果たしていることなど総合的に考えても、TPPへの参加は取り止めるべきではないでしょうか。あさひ福祉作業所でも、寮生全員の主食であるお米を、自らの手で開所以来休まずに、ここ2～3年ヒエ採りとの厳しいしのぎあいをしてながらも、米作りを続けていることに敬服し、皆さんが健康であることを願い雑感とします。



蕪崎より見た八ヶ岳



「あさひと私」

深川教会

ボランティア

昆善起

この夏、お盆時期のワークキャンプに参加した折、あさひのメンバーほぼ全員から「昆さん、もう体は大丈夫なのですか？」と声をかけられました。「ええ！もちろん体は健康よ、頭以外は！」と答えたものの、なぜ？

ワークには二十数年連続して参加していましたし、2011年には年間延べ日数で30日ぐらいあさひにいたと思います。そのわたしが昨年ワークに参加しなかったことが、昆は健康害してあさひに来られなかったと思われて、そんなうわさが流れたのでしょう。昨年参加できなかったのは、私の身の事柄で処理せねばならなかったことがあり、それが一年かかり6月中に終わりましたので参加できました。

1991年からあさひに参加し始めたと思いますが、このように長く関わりを持つことになろうとは自分自身でも驚きです。何が動かし、させるのかを考えてみますと、一つは子供と大人たちとの共同作業、きつく苦しい労働の喜び。二つ目は、あさひのメンバーとの共同作業と交流、そこにはもう遠慮はなくダメなときはダメという関係。三つ目にはやはり、島充弘、武代御夫妻との出会いなくしてここまで続かなかっただしょう。

1978年の開所以来、御夫妻はまさに身を削って今日まで運営してこられました。残念ながら、島充弘さんは2009年4月11日に天に召されました。二度ほど山梨大学付属病院の病室を訪ねました、二度目は3月8日(日)でした。いくつかの会話を交わしたことを覚えています、病室から外を見ると川辺の桜並木が花を咲かしているのが見られたことが印象的で、島さんも見られていた。その時の日記に「山梨大付属病院、島充弘さんを見舞う。意識はしっかりしていて、喜んでくれたことは私にも嬉しいことでした。姉上とも話が出来、帰りがけ駐車場で武代さんとお目にかかり、話を交わすことが出来た。」とありました。

島充弘さんはあさひに命を捧げた方でした、自分を省みず、人のために誠心誠意を尽くされ天に召された方でした。そこには本当の信仰心を見ることが出来、少しでも見習うことが出来ればと思います。のちに武代さんが洗礼を受けられたのも、島さんの歩まれた道からのこともあるのかと思います。

最後に、これからの「あさひ」について私の希望、こうなってくればなーという思いを語って終わりにします。開所から35年経つと、メンバーの仕事は以前よりも楽にはなりましたが、それでも加齢から労働はきつくなっています。やがては退職せざるを得ません、彼らが最後まであさひの地で過ごせる施設が隣接されたところがあればと思います。そして新たなるメンバーが現在の事業を維持できればと、

ハンディーある人、社会からはじき出された人、現在の社会から自ら出て、納得できる生を求めている人たちが一緒にささやかではあるが、生活でき、労働する場となる。そんな「あさひ」が勝手に想像し、願い祈っています。これからもあさひで労働をしたいと思っています、最後まで。そしてあさひの介護施設で面倒を見ていただきたいです。



昆さんの鶏舎

たけよさん、なぜ反対しなかったの？

おばあちゃん、なぜ黙っていたの？



NPOあさひ

あさひ福祉作業所

代表 島 武代

あさひテレサホームのスタッフ・彼らと喜怒哀楽の日々を重ねています。鶏に如何に卵を産ませるか、(猛暑にも今年は順調に産卵してくれました)しいたけを如何に発生させるか(8月は失敗しました)パン、ケーキを焼き、お弁当、お惣菜を作り、如何にお客様に買っていただけるか、と苦戦し、帳簿とにらめっこをしています。

田んぼでは、イネの成長に一喜一憂し、水の管理・草取りをしています。久しぶりにみるアマガエルに微笑み(日照り続きで、姿を見せませんでした)が、翌日土砂降りの雨になりました)、草とはいえ、きれいな花を咲かすオモダカ・コナギ・イ

ヌホテルイにホッとなごむ心、、、、、大豆畑では来春の味噌作りに心を馳せ、草取りに取り組んでいます。

11 月にはカトリック教会での韓国巡礼の旅に、テレサホームの彼女たちと参加することとなりました。初めての外国旅行にパスポートの手続きと、彼女らの心は2ヶ月後にふくらんでいます。

テレサホームの彼らは、2班に分かれ、スタッフと男性だけの気楽な旅行に心はずませています。

このような日々の生活も平和であればこそです。

今、憲法9条が大きく話題になっています。

武器を持たず、他国を侵略せず、平和的に解決する憲法9条。

それを変えて他国で戦争をする集団的自衛権を確保する、竹島、尖閣諸島と中国・韓国の問題、又、北朝鮮のミサイル発射と、それらの国が、日本を攻撃してきたときに応戦できるように武器を確保する、なんと恐ろしいことでしょうか、、、、

日本は、国として、歴史を検証せず、歴代の政権が考えを述べています。ドイツでは、ナチス・ヒトラーの歴史を検証し、イラク戦争には参戦しませんでした。

南京大虐殺は、なかったとか、慰安婦は国家として関与していないとか等々、歴史を凝視しなければなりません。

この夏、反戦物の映画・テレビドラマが多くありました、少年H・二十四の瞳もそうです。又、先日亡くなられた中沢啓治さんの漫画“はだしのゲン”、閲覧制限になった旬の話題作もそうです。自身の被爆体験をもとに、現実にあったことを、子供たちに戦争のむごさ、おろかさを伝えています。主人公の中岡 元（ゲン）は広島原爆にあい、家族を亡くします。しゃれこうべを手にとり、これがおかあちゃん？これが妹？と泣きさげびます。激動の時代、ゲンは悲しみをかかえながら、どんな境遇にも、生きるぞ！生きて、生きて生き抜いてやるぞ！とさげび、決意します。

私は、このフレーズが好きです。今の子供たちに、この生き抜く心を持ってもらいたいのです。はだしのゲンから、いろいろ学んでほしいのです。

あさひの彼らが惨めな思いをしないように、彼らに“たけよさん、なぜ反対しなかったの？”といわれないように、、、また、私の6人の幼い孫たちが兵隊になり、戦場に立った時、“なぜおばあちゃん、あの時だまっていたの？”と言われないように、憲法が私達の生活の基本であることを認識し、行動していこうと思います。



休憩中

ホームコンサートのご報告

とく先生

と

あさひテレサホームの仲間たち



NPOあさひ 中山 正博

昨年に続き、吉村音楽教室の主催で、八ヶ岳やまびこホールにて開催されました。会場を半日貸し切った開催で、主催の吉村先生には1日大変お世話になりました。ありがとうございました。お陰様で、2時間にわたるプログラムではありましたがあっというまに無事、盛大に共々楽しんでいただけたことと思います。

会の様子を写真でお届けしますが、今回は映像記録も撮っていただきましたのでDVDにてご鑑賞していただけます。貸出も含めてご要望ございましたら個別にお問い合わせください。

写真提供 挽野 恵弘様



合唱



合奏



田中 よし子さん



佐藤 恵美子さん



演奏



南 建司さん



浅川 理恵さん



市村 明さん



島 武代さんお礼の挨拶



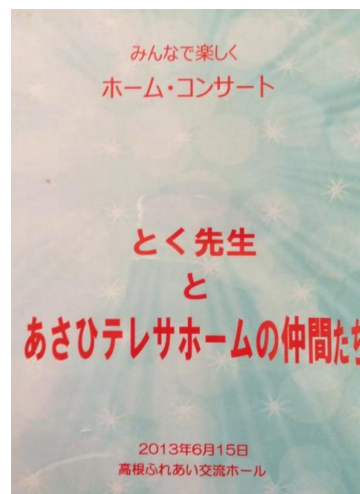
伊藤 裕子さん



全体合唱



吉村 トク先生



DVD

あさひテレサホームの皆さんとは、6年前から年2回春秋にお訪ねしてミニコンサートを開いてきました。これが発展して週一回の歌の会を始めて3年になります。自ら楽器を手にして参加して下さるボランティアの方々も増え、皆様の助けを借りて今日の発表会を開くことが出来ましたことを感謝します。

吉村音楽教室 吉村とく

ドキュメンタリー映画

“生命（いのち）のことづけ”

～死亡率2倍 障害のある人たちの3.11～

8月20日午後、蕪崎市民交流センター NICORI -ニコリ-の多目的ホールにて開催されました。

「東日本大震災 救助隊員の活動記録」講演及び記録映像も参加消防隊員の方によってお話いただきました。あらためて震災及び津波の恐ろしさを実感させられました。特に、障害者の死亡率は2倍であるとの報告は、障害者にとっての被災時の対応はどうあるべきかなど考えさせられる貴重な時間となりました。



プログラムの最後に、あさひ福祉作業所のメンバーによる“東北に春よ来い”の合唱で最期を締めくくりました。この曲は、蕪崎市立病院ボランティアの皆さんが作詞を手がけた東日本大震災復興支援曲です。



上映前のひととき

作曲は、病院内に掲示されたボランティアメンバーの詩に感銘をうけた甲斐市在住の作曲家 赤沢一郎さんが手がけられました。

現在、病院内の売店で、義援金募金箱の設置とともに、CDを配布しています。

作詞 韮崎市立病院ボランティア

作曲 赤沢一郎

編曲 山田恵範

～歌詞～

東北に春よ来い はやく来い
ひとりひとは小さいけれど
思いやりが集まれば 大きな力となる
東北に 春よ来い 早く春よ 来い

ルル... ルル...
ひとりひとは小さいけれど
絆の輪が広がれば 大きな力となる
東北に春よ来い 早く春よ 来い

東北に春よ 来い
早く 春よ 来い

東北に春よ 来い
早く 春よ 来い



須玉のひまわり畑

新しいスタッフのご紹介

7月10日に強力なスタッフが着任しましたのでご紹介いたします。
皆様の温かいご支援の賜物の賛助会費等の御寄附を頭金とし、リース契約であさひの仲間になっていただきました。この場を持ってあらためて、ご支援への御礼を申し上げます。デマンドバスも無くなった今、頼もしい助っ人に感謝しております。この黒紫のボディーカラーも寮生みんなの希望で決めました。どこに行っても、ナンバーを覚えなくとも、色で見分けがつくので、迷うことなく帰って来れるからです。この発想は素晴らしいですね！
中山



新スタッフ VOXY 8人乗り



あさひ発電所ソーラーパネル完成 8/5



メーター 発電開始！！

次のあさひ交流会は： ◎日時 平成25年12月14日（土）

（もちつき大会）

午前10時～午後2時

特定非営利活動法人あさひ あさひテレサホーム

〒408-0002 山梨県北杜市高根町村山北割 86-6

TEL 0551-47-3950

FAX 0551-47-4414

asahi-fukushi@cd.wakwak.com

賛助会費・寄付金等

★郵便局振込★ 00220-1-98254

編集者：中山 正博